

昨年秋と冬に双子座流星群の観測を数日行つて、暁の東天中空に掛る双子座を注視してゐる内に、拾數個の星よりなる珍妙なる星の圖案、ダブルトライアングルを發見した、圖がそれである。總體に光度が弱く、カストル、ポルツクスの強光度の一對に目を引かれ極立つて目立たないものであるが、少し見てゐれば浮び出て充分その配列の美に親しめるものである。もしこの各角を構成する拾貳個の星の光度が、もう少し強く揃つてゐれば、オリオン、大犬と列び大空のダイヤモンドとして斷然他を壓することだらう、一度御覽になる事を希望する。他の空も探せば相當面白いものが得られるだらうと思つてゐる。(昭和十年一月)

下保氏考案の“Colorimeter”

寫眞にて A は黃道光をのぞく窓、B はフイルタ 1 を透して比較面 F をのぞく窓、C, D, E は夫々赤黄青三種 6 枚づゝのフイルタ 1 の枠、H はフイルタ 1 枠を左右に動かすスライディングゲート板、A B の影の所に光源があり比較面 F を照らし使用する時は光源及び比較面黒ラシヤ紙にて包む。フイルタ 1 はメルクの染料赤黄青各 1 グラムを 100 cc のアルコールに溶いたものを原液とし、この原液の 1%, 2%, 4%, 8%, 16%, 32% 溶液中に銀抜きをし

た乾板を五分間浸して染色したものである。

使用する際はフイルタ 1 枠を左右に動かして色を加減して黃道光の色と同じになる様、即ち A, B よりのぞいた兩者の色が同一になる様にするのである。(淺野)

